

2014年7月1日

国際モダンホスピタルショー 2014 開催せまる

日本病院会と日本経営協会は、7月16～18日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイト東展示棟および会議棟で、「国際モダンホスピタルショー 2014」を開催する。

保健・医療・福祉に関する国内最大規模の総合展示会で、今回で41回を迎える。来場予定者は、3日間を通して8万人の予定。

メインテーマは前回に引き続き「健康・医療・福祉の明るい未来へー連携による安心社会の実現を目指して」。出展は366社。

■ 展示全体を6ゾーンで構成し、展示とセミナーで最新情報を提示

展示は「医療機器、環境設備」「医療情報システム」「看護」「介護・リハビリ」「健診・ヘルスケア」「施設運営サポート・サービス」の6ゾーンで構成。それらのゾーンから特化した展示コーナーとして、医療情報システムゾーンには「医療連携・セキュリティ対策コーナー」および「医用画像・映像ソリューションコーナー」を、介護・リハビリゾーンには「在宅医療・ホームケア支援コーナー」を、施設運営サポート・サービスゾーンには「病院経営を支える医療安全とコスト管理コーナー」を設け、展示・セミナーを連携させて、最新情報を提示する。

■ 医療連携、ICTによる国際支援などをメインにした主催者企画展示

主催者企画展示は、「明日の医療連携と国際対応を支援するICT活用」。企画したホスピタルショー委員会の医療情報部会は、展示の趣旨について「医療連携の重要性・必要性が高まり、日本在住そして観光客の外国人増加で、医療従事者への支援ツールが求められている。そこで、今回の展示では、最先端のネットワークやアプリケーション、モバイル端末等のICTを活用し、医療連携や外国人との対応、コミュニケーションなどの医療の質の向上を推進している事例をパネルや製品展示により紹介する」としている。

■ これからの医療制度、ICTの最新動向、病院の災害対策などをテーマに、フォーラム・シンポジウムを開催

オープニングセッションでは、堺 常雄日本病院会会長が「迫られている病院の選択と決断」と題して講演する。

病院経営フォーラム「これからの医療制度と病院のあり方」では、「人口減少社会に向かう日本の高齢者医療福祉のあるべき姿」「『選択と集中』で地域医療に貢献する仙台厚生病院の取り組み」をテーマに開催。

シンポジウム「継続的な質改善活動の醸成に向けて一病院機能評価活用の意義」では、「機能種別版評価項目(3rdG:Ver. 1. 0)と継続的質改善の評価について」「継続的質改善のための病院機能評価の活用について」の発表とディスカッションが行われる。

ITフォーラムは、「タブレット端末による診察の効率化」と「医療ビッグデータの利活用」をテーマに2つ行われる。前者では、「タブレットデバイスで効率的な診療環境を構築」「モバイルデバイスを活用した地域包括ケアシステムの実現」、後者では、「ビッグデータを活用した医療の質向上」「ビッグデータ時代における医療データサイエンティストの必要性」が語られる。

日本病院会主催の公開シンポジウムは「災害に打ち勝つ病院」と題して、基調講演やシンポジストによる発表が行われる。

出展者プレゼンテーションセミナーは、3日間を通して26コマ催される。ユビキタス医療、クラウド化、DPC時代の病院戦略、医療現場でのスマートデバイス活用など、テーマは多岐にわたっている。

以上

＝新医療＝